観瀾亭と松島湾

松島中心部にある観瀾亭からは、松島湾の絶景が望めます。実のところ、「さざなみを観る」を意味する「観瀾」というこの建物の名前は、この景観にちなんでつけられました。

建物自体は元々松島に建てられたものではなく、当初は天下統一を果たした強力な武将・豊臣秀吉（1537-1598）の居城だった京都の伏見桃山城の敷地内で茶室として使われていたとされています。仙台藩（現在の宮城県を含む地域）の初代藩主伊達政宗（1567-1636）は、豊臣秀吉直々にこの建物を与えられました。しかし、この建物の現在の所在地を注意深く選定したのは正宗の息子、忠宗でした。この高台の岬は、約 260 の島々を背景に松島湾に映る月を眺めるのに絶好の場所でした。観瀾亭では今でも秋になると月見の行事が催され、また、日没後に赤や金の紅葉がライトアップされるイルミネーションイベントも行われます。

伊達家の統治の時代には、大名や姫、特使などの賓客だけが、観瀾亭の敷地内に宿泊する栄誉にあずかりました。この敷地にはかつて他にも 10 棟の建物がありました。現在はこの建物の主な二間のみが一般公開されており、茶室として使われています。観瀾亭では涼しい潮風を感じながら景色を楽しみつつ、畳の上で抹茶と和菓子をいただけます。

見どころは、金箔張りの床の間と襖に鮮やかな松島の松の絵が直接描かれている豪華絢爛な「御座の間」です。現在の絵は江戸時代（1603–1867）に描かれた作品の複製で、原物は近くの瑞巌寺で保管されています。

松島湾の景色は日本三景のひとつに数えられています。また、松島湾は 2014 年に日本の湾で初めて「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟が認められました。

入場料は大人 200 円で、抹茶と和菓子は 500～700 円です。観瀾亭のすぐ裏手にある松島博物館では、かつて伊達家が所有していた甲冑や書画などの宝物が展示されています。